

# 公園整備計画作成の基本的な考え方（案）

## 公園整備計画作成の考え方

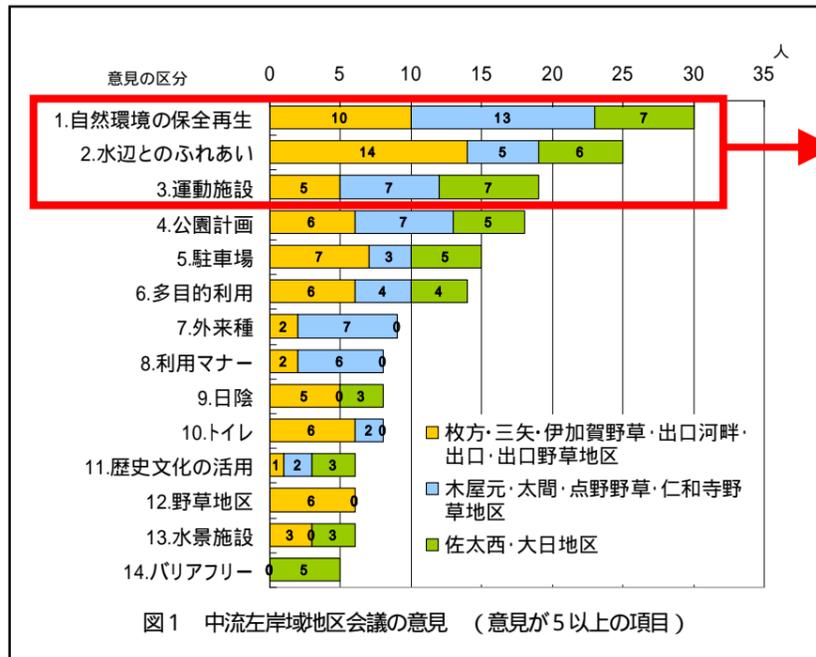
「淀川河川公園基本計画」の整備方針の実現に向けて、今後の整備・再整備のモデルとなる地区を選定する。  
モデル地区において、およそ5年程度を目途に整備・再整備が見込まれる内容について、地域協議会等で意見交換を行い、公園整備計画（案）を作成する。

### 公園整備計画を作成するモデル地区選定の流れ

- 淀川河川公園の整備・管理運営方針  
(淀川河川公園基本計画(平成20年8月改定))

- 整備方針
  - ゾーニング計画を新たに定める
  - 淀川の自然環境の保全・再生を図る
  - 淀川らしい利用ができるようにする  
淀川の自然環境と利用との調和を図る  
淀川の自然環境の中で水に親しみ、憩う場をつくる  
淀川全体をつなぐ・まちと淀川をつなぐ  
淀川の水辺の景観を楽しめる場をつくる
  - 淀川にまつわる歴史・文化資源を活かす
- 管理運営方針
  - 淀川の自然環境の保全・再生に関する調査・分析と見直しを行う
  - 安全、快適に利用できるようにする
  - 淀川にふれ、学ぶための機会を増やす
  - 多様な主体の参加と連携を図る

### 多様な利用者・利用団体の意見（地区会議の結果）



#### 【地区会議意見の例】

##### 1. 自然環境の保全再生

今の淀川河川敷は乾燥しているため、川らしい植物群落がほとんど見られない。河川敷に水を取り込み、本来の河川敷の自然を再生する取り組みが必要である。生物多様性のため、小魚・稚魚が育つワンドやたまり等を整備する。外周が陸地化しているワンドの再生や埋まっているワンドの復元を行う。自然とふれあえるようにする整備。人が手を入れて「里川」的な整備を行う。

##### 2. 水辺とのふれあい

人が水辺まで入りにくい。川の横でありながら川を感じられない。子どもたちが水遊びのできる場所を確保する。護岸がブロックで切り立っていて水辺に近づけない。水辺に近づけるようにする。

##### 3. 運動施設

陸上競技場など、あまり利用されていない。特定の利用しかできない運動施設は、他の利用方法を考えるべきである。少年野球場は平日使われていないので、多目的に使えるようにすることにより、他で使っている運動利用面積を減らすことができる。枚方地区の近くでグラウンドゴルフができる場所がない。

### 中流左岸域の公園地区の特性（資料4参照）

自然環境保全・再生ゾーンが設定されていない。  
点野野草地区には、ワンド等の特色ある自然環境が存在する。  
低水護岸により、自然環境の連続性が確保されておらず、水辺にふれあいにくい箇所が多い。  
運動施設が多いが、平日の利用率は低い。  
噴水などの水景施設が多く、老朽化が進んでいる。  
太間地区にはサービスセンターがある。  
枚方地区、太間地区、点野野草地区、佐太西地区等に淀川に関連する歴史・文化資源が存在する。  
枚方地区、太間地区には緊急用船着場が整備され、枚方地区では観光舟運が行われている。  
点野野草地区、枚方地区では、市民参加による環境保全・環境学習等の活動が行われている。

### 中流左岸域で取り組む重点項目

#### 1. 川らしい自然環境の再生

・淀川らしい自然環境を再生するため、河川敷の切下げ等を行う。

#### 2. 水辺とふれあえる環境整備

・噴水などの人工的な水景施設から、淀川の水辺とふれあえる親水空間へ転換する。

#### 3. 多目的利用の促進

・単一目的の運動施設から、多様な主体・世代が利用できる多目的な広場へ転換する。

#### 4. 川とまちとをつなぐ取り組み

・淀川と結びつきが深い舟運や歴史・文化資源を活用する。

公園整備計画を作成するモデル地区の選定